

ふるさとを想う

ズーゾー弁は、心のふるさと

伊藤 廣

(北村出身)



ズーゾー弁は今でも大切な心のふるさとです。上京して何十年たった今も都会のことばと秋田弁が混ざり、なまりながら会話をしています。今でも上野駅に行くとズーゾー弁で話す人たちが多くほっとした気持ちになります。

ます。

思い出すこと今から約60年前、夢を追いかけて上京しました。上野に着いたとき、息苦しさを感じました。母からは、「東京の人間には勝てない」と言われたのを今でも覚えています。学生時代は貧しく、当時住んでいたアパートには風呂がなかったため、タオルで体を拭いて1日が終わる日々。不安と希望が入り交じった時代でした。

就職活動では、採用試験に合格することができました。研修場所は、電電公社(現在のNTT)。辞令交付式で、同期生6人で宣誓書を読みました。6人ともバラバラの配置となりました。50年経った今でも会って

東京で1番好きな場所は「上野駅」です。歌手・井沢八郎が歌った上野駅が懐かしいです。2番目に好きな場所は修学旅行で訪れた「東京タワー」です。あんなに高い建物は見たことがありませんでした。3番目は「神田本の街」。学生時代だけではなく今でも古本屋街を散策しています。

そして現在、私の趣味はボランティア活動です。2021年に開催された東京オリンピックでは、秋葉原などで活動し海外の選手と交流することもできました。東京マラソンでは毎年、日本橋や秋葉原などで活動しています。さらに、上京後の五城目町との関りも30年になり、町のために楽しみながら頑張っています。これからも続けていきたいです。

講演で横道それで盛り上がる脇 乙 いとう由海 コンサート余韻に浸る星月夜 西野 佐藤ちずる 遠くへと俺の心は鳥になり 脇 乙 伊藤 兼蔵 さくら舞う胸の水位が溢れ出す 館 町 細田 陽炎

短歌

選者 加藤 隆枝
(秋田市)

入選一位『夏の雲』

(大川) 八柳 知徳

八本の腕を伸ばしてそそり立つ
送電鉄塔夏雲映す

鋭角に一筋のびる飛行機雲やがて
太りて鱗をまとう

雲去りて鳥海山の裾野さへ際立
ち見ゆる夕べとなりぬ

評 雲を素材にした三首はどれも言葉に無駄がなく、的確で引き締まった表現は一首一首を力強いものになっている。どれも心地よい調べをもち、情景が鮮やかに目に浮かぶ。

入選二位『君はADHD』

(西磯ノ目) 工藤 兼雄美

前ならえできないオレつてどつか変?
君のカルテにADHDとあり

通学路棒切れ振り上げ君が行く
出るなら出るクマおれが相手だ

比ぶべくもなき芸君にあり飛行
機折らば雲の峰越ゆ

評 ややもすれば困った子と捉えられがちな君へ向ける作者の目があたたい。一首目と二首目、実際の君の言葉を詠み込んで歌が生き生きした。三首目には明るさと救いがある。

入選三位『黒揚羽』

(西野) 鎌田 康子

薄雲がシェードとなりて陽のやさし
ゆるゆるとゆく今朝の山道

北国の夏のコブシは柑橘の香をふ
くむ瞬の爽

息ひそめ見つめる先の黒揚羽ヘッセ
のあこがれわが心にも

評 一首目「シェード」の見立てが素敵。二首目は「香り」と表記した方が読みやすい。三首目はヘッセの「少年の日の思い出」か。全体的に内容と表現がよく調和している。

俳句

選者 舘岡 誠二
(八郎潟町)

入選一位『八月十五日』

(昭辰町) 本間 富子

万民の命は一つ原爆忌

地球には戦争いらぬと蟬の鳴く
次世代へつなげ八月十五日

評 戦争は嫌だ。原爆忌に因み一気な表現。人の命の尊さを大切にすると息づかいが伝わる。三首目は明日を継ぐ若い人たちの心情。現代的表現力を感じられる。重厚。

入選二位『曼珠沙華』

(東磯ノ目) 菊地 政明

Uターン妻子を連れし曼珠沙華
母を恋ふ 螢が帰へる里の水
忠魂碑来る人もなし蟬時雨

評 ふるさとへの情感のくぐらみがあり、作者の人生の表情が見え、三首とも年季が入っている秀句。二首目は特に優しい心根がみえ、座五の風土性も魅力的である。

入選三位『盆おどり』

(八郎潟町) 小柳 文子

里心ここ一番と盆踊り
休暇とり空路でめざす盆踊り
ゆるやかに三勝踊り輝けり

評 ふるさと伝承の盆おどりは楽しく心地良い。作者は盆踊りと土地の風土を愛しくてやまないのである。二首目の休暇とりが郷里へ帰る楽しみが伝わる。明るい句。

入選四位『父の想い出』

(湯ノ又) 畑 タマ子

春の朝肩車して高い高い
良く焼けた白炭二本楽器にし
袴はき卒業式に来てくれた

評 一句目は作者の子供時代が目に浮かんで来て心とむ。二首目は「楽器」の着想が適正といえる。三首目は律義な父の優しい人生もよくが連想できる。

川柳

選者 浅利 猪一郎
(仙北市)

入選一位『それでいい』

(新畑町) 荒川 剛

くもり空なにもテーマが浮かばない
ため息もやめた私は私です
理由なくただ青空が好きでした



【短歌】

穂をわけて山のぼりゆく風の道
芒は銀に秋を光らす

下樋口 小熊 正明
思うことのみ多くなり成すことの
少なくなりぬ西空昏るる

八郎潟町 畑澤 英子
夏ばてに食欲低下
梅千しのお茶漬け食べて笑顔がもどる

【俳句】

つつめけの空の青さや雁渡る
昭辰町 本間 富子

秋の宵かがり火ゆらす舞扇
上高崎 舘岡 絢

篝火と仕舞謡に秋の風
畑 町 本間 恵子

【川柳】

講演で横道それで盛り上がる
脇 乙 いとう由海

コンサート余韻に浸る星月夜
西野 佐藤ちずる

遠くへと俺の心は鳥になり
脇 乙 伊藤 兼蔵

さくら舞う胸の水位が溢れ出す
館 町 細田 陽炎

評 まさしくそれでいいのです。曇天を目に頭の芽える人なし。悩んでも体も心も一つ。そして何かを好きになる事に深い理由には必要ない。自分の言葉での句群に好感が持てた。

入選二位『雨が止んだら』

(大川) 渡部 光人

胸騒ぎ風が耳打ちしたような
遠雷のうちに悪さを止めにする
何だって出来そう俄雨が止む

評 胸騒ぎを感じた事はないが、風は喚ぎ分ける。雨が生活に与える影響が大きい。「悪こ」は早目に断つべし。俄雨後の清涼感は格別。自然の言の葉を上手に取り入れた作品。

入選三位『小さな幸せ』

(新畑町) 渡辺 誠一

盆栽のような小さな幸でいい
青い鳥なんていらぬ妻がいる
泣き笑いしながら歩く人の道

評 幸せの基準とは人それぞれ。盆栽にも色々あるが高価なものは手入れが厄介。今の生活に満たされている作者の心がよく見えた。「小さな幸せ」は決して小さいものではないのでは。

入選四位『ハッピーエンド』

(紀久米町) 越後 和子

今日もまた私の劇が幕開ける
台本はハッピーエンドそれがいい
大丈夫逆転だってできるから

評 これからの人生で「明日より若し日は無い」との覚悟で生きると毎日が新鮮な初舞台。一日を有意義に過ごし満たされ、何も悔いなくべつりと眠りたい。そんな願望の句群。

主催 町教育委員会
町芸術文化協会